

この度、ヴァイオリンを演奏することになりました、姜賢玉です。現在は、メリィホスピタル、社会福祉法人ひろしま四季の会こころクリニックに内科医として勤務しています。

医師の観点から音楽を語るとなると、音楽療法の実践や効果についてかっこよく書きたいところですが、もともと音楽と医師としての仕事は私にとって別々だったので、切り替えが難しいことが多々あります。ただ、1年前に林晶彦先生と出会い共演した後から、少しずつ何かが変わり、実は相互にリンクしているのだということに気づきました。そして、そのことが医療の現場で実際に感じられるようになりました。

私にとって音楽とは、自分と向き合うもので、音を出しているときは、ずんずん心の奥底に引っ張られ、私という人間の最小体に出会った時点でそこに落ち着くという感覚です。そして、そこで音は私をじっと俯瞰します。そうして出てきた音色に自分でも驚くことがあります。すなわち音楽は鏡であり、本当の私であります。

人生も半ばになり、ようやく人生の美しさ、素晴らしさとはこういうことなのか、ということが少しずつわかるようになりました。それは、人との出会いから広がる新たな世界という形で私に気付きを与えてくれました。比較的狭い世界を生きてきた私が、今になって林晶彦先生との出会いを扉として色とりどりの世界がどんどん開けていき、今まで別々だったことがリンクしていくことに驚いています。これが私で、これが人生なんだとひしひしと感じる今日、全ての出会いに感謝し、起きる全ての現実を受け入れ、自分は宇宙の中の一員であることを意識して生きていこうと思います。また、医師としては音楽を軸として、栄養学、中医学を理解し、未病を防ぐ医療はもちろん、患者さんの生きてきた素晴らしい人生の歴史を理解し、私もその時代に思いを馳せながら、人生の最期まで寄り添い気を遣っていけるような医師人生を送りたいと思っています。

今回、林晶彦先生の記念すべきコンサートで、先生の思い出のある楽曲「シオンの丘より」を演奏することは大変貴重な機会です。これまでクラシック曲をメインに弾いてきましたが、作曲家から直に想いを聞き、コミュニケーションを取りながら曲を作っていくことはとても楽しく幸せな体験です。この曲は林先生の真実の愛、平和を求める強い想いが込められており、その表現力に驚かされます。また、超絶技巧という意味もありますが、これまで聴いたことのないスタイルの曲で、ヴァイオリンの新たな可能性を感じます。技巧的に大変難しいですが、先生の心から出た音を大事にたく、敢えて原譜のままに取り組みます。林先生の想いを表現することは、いつしか私の中の葛藤や願いとリンクし、それは今後私が奏でる音楽に強く表現されていくことでしょう。楽曲「シオンの丘より」から出る音の波動が聴く人の心に届き、共感、新たな気付き、願いをもたらすことを願ってやみません。

姜賢玉 (カン・ヒョノク)